

生駒市景観形成基本計画の全体構成（案）

第1章 はじめに
（計画の基本的事項）
 計画の目的、位置付け、構成などの基本的な事項を述べる

- わたしたちの暮らしと景観
- 基本計画を策定する意義
- 目的

<本計画でめざすもの>

①生駒の景観の特性を把握し、
<景観特性>

②前提とすべき「基本原則」に則って、
<基本原則>

③景観を成らしめている要素を読み解き認識し、
<生駒らしい景観のパターン>

④市民・事業者・行政が自ら考え、協働のもとで景観づくりを進める
<方針・推進方策>

計画とする

- 位置付け
- 改訂にあたって重視した視点
- 計画の構成

第2章 基本理念と生駒らしい景観の特性
 景観づくりに取り組む上での基本理念と、生駒らしい景観の特性を示す

1 基本理念

1. 生駒らしい景観の特性を認識する

2. 生駒らしい景観を構成する要素を読み解く

3. 市民・事業者・行政が自ら考え、協働しながら景観形成を図る

2 生駒らしい景観の特性
 生駒の景観をどう認識していくのか、を示す

景観特性

1 地勢
 地形・流域など「大景観」として生駒のアイデンティティを体現

2 地域性
 自然、田園、市街地景観など「中～小景観」として場所に依りて多様な特性を持つ

2-1. 歴史・文化の文脈

2-2. 市街地開発の文脈

2-3. 界隈の空気

3 暮らし
 1、2の景観は人の暮らしの中で支えられている

第3章 基本原則と生駒らしい景観のパターン
 生駒の景観特性を踏まえて前提となる基本原則を定め、それを構成する（成らしめている）要素を読み解いた上で、普遍的なキーワード（パターン）を抽出する

1 基本原則
 特性を伸長するため前提として遵守すべき原則を設定

基本原則

1 地勢を尊重する
 地形の骨格がつくる空間の構造と景観との関係性を認識し尊重する

2 場所の特性との調和を図る
 地域により、立地により異なる場所の特性を読み解き、それらの特性と景観との関係性を意識し、調和を図る

3 暮らしの営みの中から育む
 暮らしの営みと景観との関係性を認識し、景観づくりを特別な取り組みと考えずに、当たり前行動の中から生駒らしい景観を育む

2 生駒らしい景観のパターン
 生駒らしいよい景観を形づくる普遍的なパターンを抽出

パターン

1 生駒山への意識
2 生駒山の信仰と世俗の境界領域
3 緑に溶け込む建物
4 屋根並みに浮かぶ緑の島
5 見晴らし
6 川筋の見通し
7 高低差の尊重
8 曲がった道
9 坂道
10 顔の空間
11 人が交わる場所
12 農の風景
13 伝統産業の風景
14 聖なる場の威厳
15 通りのプロポーション
16 人の尺度
17 しきりとつなぎ
18 にぎわいのにじみ出し
19 統一と絞り込み
20 連歌式
21 期待感
22 用の美
23 表出する緑
24 アクションできる余地
25 生駒石
26 仮設の風景
27 移ろいの風景
28 記憶の風景

第4章 景観づくりの推進に向けて
（方針と推進方策）

第3章で示した基本原則を踏まえ、どのように景観づくりを進めていくのか、その取り組みの方針と推進方策、役割分担などを示す

- 1. 立場に応じた景観づくり**
- 市民：景観づくりに取り組む市民、住宅の施主、市外からの応援団
 - 事業者：景観づくりに取り組む企業市民、事業所の施主、開発・設計事業者
 - 行政：景観づくりの枠組みを整える主体、総合的な施策推進の主体、公共事業の事業主体
- 2. 身近なまちの特徴に応じた景観づくり**
- 住宅地
 - 商業地
 - 集落
- 3. 景観づくりの施策**
- 意識付け
 - 誘導
 - 規制
 - 支援